

拝啓 尾嶋先輩様

先日は、厚かましくも先輩のご自宅まで押しかけまして申し訳ありませんでした。尾嶋先輩から頂きました寄付金2万円は2月8日(月)に入金させて頂きました。2010年度の先輩の母校である「兵庫県立大学サッカー部」の活動の為に有意義に活用させて頂く事、お誓い申し上げます。先輩とは面識がありませんでしたが、共有のスポーツ「サッカー」を通して距離が縮められ大変嬉しかったです。今更ながら良き学校、良きクラブ、良き先輩に恵まれた事を感謝しております。最後になりましたが、訪問の際お約束しておりました母校に関する資料、OB資料で昔を懐かしく思い出してもらえたらと資料を送らせて頂きます。ご一読下さい。最後になりましたが、出石はまだまだ厳しい寒さも続くものと思われまます。奥様も含め十分お体にはご自愛頂き、母校の大先輩として末永く後輩たちをご指導賜れば幸いです。本当にありがとうございました。

敬具

淡水サッカークラブ

会計 遊上利之

平成22年2月7日

尾嶋先輩(K9)取材レポート～兵庫県出石市のご自宅にて

- ・ 昨日までの極寒とはうって変わって柔らかな日差しが地面を照らす場面もあった2月初旬の日曜日、特急北近畿から全但バスを乗り継いで、尾嶋先輩のおられる「小京都出石」に行き参りましたので、ご報告致します。
- ・ 結論から言いますと事前に奥様から情報頂いており、本人ご高齢で耳が少し遠いと言葉も大きな声で発生できず、結果内容を小職が話を伺いながら記録する形となり、十分先輩の言葉が伝えられるか心配ですが、そこは津野大編集長の才能をお借りし、上手く編集頂きますようお願い申し上げます。ご本人も70年近く前のことで記憶に自信ないがとおっしゃってましたので付け加えさせて頂きます。(G2 外島先輩のOB列伝との整合性からも)

以下ランダムにご報告します。

① 今回現役にハガキを投函された背景

毎年現役から郵便で活動報告が送られており、ご自身の学生時代サッカーに情熱を持って打ち込んだ事を思い出す。自分は食で好き嫌いがあったが、サッカーと出会ってからお腹が空き、きれいな野菜等嫌いなものも食べるようになり、結果90歳になっても一部耳は遠くなったとはいえ現在元気に暮らしている。これもひとえにサッカーに打ち込んだ結果と思っている。

② 年金生活されているのに現役のメンバーに寄付したいと思われたお気持ち

①のような思いをずっと持っておられ、遊上の記憶ベ-スでは5年程前に自宅近くの但馬で合宿すると聞いた時に、現役の活躍見がてらに「寄付」を持参されようとしてが、結局タイシグや体調かもしれませんが出向けず今日に至っていた。ひっとしたら数回目の白内障の手術を目前に踏まえその気持ちを何とか現役のメンバーに伝え少しでも寄付が出来ないかと今回のハガキの投函になったものと思います。

Q.尾嶋さんの現役時代のポジションは?

A.当時はフォーメーションが5-3-2-1(GK)で硬直的なポジションニング。ご本人は右足がきき足であったが、数少ない左足のキック力を持たれていたことからLW(レフトウィング)。華麗なるレフティで、尾嶋先輩が左のタッチライン沿いを駆け上がり、当時CF(センターフォワード)の同期前橋(K9)にセンターリングを供給されていた当日のアシスト王?(当時高商の得点パターン)だったようです。

もう一人同期で存命の岡さんの話に向けましたが、練習がきついと途中で止められたようです。(戦争が激化することも呼応して)

Q.当時のサッカーは?

A.現在のサッカーも結構見られている様で「ブラジルは強い、強くなったなあ」と感慨深げに言われていました。とにかく当時はポジションングが厳格で自分の位置を大きく動くことなく、フォワードである尾嶋さんは敵のゴールラインとセンターラインのユ-ト半面を動き回っていたとの事。よって自陣に戻ったりするとよく怒られたとの事でした。また、球回しや動くスピードも現在のようなスピードは良いか悪いかは別にしてなかったようです。ボールも重く硬く縫い目がくつきりと見えているものばかりとのこと。

*ご本人の記憶ではサッカーが大変マイナ-で現役のような確りしたリーグ戦は無かったと記憶されていましたが。(⇒これは外嶋さんの記録と違います。参加学校少?)

Q.最近のサッカー人気について

A.大変ビックリしている。野球以上にサッカー愛されていると先輩も思われて

おり、驚きと同時に喜んでおられました。現役の試合も速報みるが観衆の多さにビックリされてました。ある意味羨ましく思っておられ、自分たちの試合は旧三商大戦で東京で一橋大と試合した時など選手以外周りに誰もなく母校の名誉も合わせ戦っているが実感は乏しかったようです。

Q.記憶に残る母校の有能選手は?

A.当時のリベック候補選手(OB 列伝に出てくる4選手)の名前は出てこそ名簿に載っておらない「ドイ選手」(尾嶋さんよりは後輩)の名前を上げておられました。

Q.ご本人のサッカーキャリア

A. 県立神一商⇒県立高商⇒旧神戸商大(現神戸大)の10年間がご本人の輝かしいサッカー時代のようです。ただ、練習は当時も大変厳しく常にやめようとしていたが、選手が多くはおらずいつも引っ張り出され学徒出陣というか大学卒業と同時にサッカーはやめ、大東亜戦争が厳しくなる最中、徴兵され内地であったが戦地に赴かれたとの事。当時は実際防空壕のようなところで機関銃を持たされ敵と向かい合ったと言われてました。幸運にも命が救われ、今に至っております。

* 以上3つの学校でサッカーをされていましたが、神大でなく高商時代のサッカーの思い出ばかりを懐かしく語っておられました。

最後に現役の皆様へ(本人の気持ちを斟酌して)

～ご本人はサッカーの素晴らしさ、人間形成上で有効性、そしてサッカーと巡りあった事で頑強な体も作れ、現在の自分がある。サッカー無くして今の自分は無いという事を熱く語っておられました。そしてご本人の「サッカー愛」ゆえに現役の皆さんにも現在の環境下(=出兵の危険なく、食事情も良く沢山のOB並びにマネージャー・母校の代表を応援するクラブ外の学生に応援されゲームに出れる事の喜びを感じて、これからも戦って欲しい。背負うものも重いかもかもしれませんが、これは関西学生の第一線で戦った昔も同様。さらに重く言えば、外島先輩からも聞きましたが、サッカーがやりたくても出来ず、戦地に駆り出された級友たちの事も意識させられゲームで戦っていた頃の遠い昔=戦前・戦中の黄金期

- また、昔と違って目まぐるしくポジションが動く現代スポーツサッカー、サッカー人口も増え、昔と比べ物にならないレベルの試合の中で結果残すことの大変さも判っておりますとおっしゃっていました。だから現役が頑張っている姿に出会う度に喜び、応援したくなります。これからも応援しております。